



社会福祉法人つるかわ学園
 つるかわ学園を支える会
 ☎195-0051
 東京都町田市真光寺町
 186番地
 TEL (042) 735-2220
 FAX (042) 736-6374
 HP:tsurukawa-gakuen.com

感謝状

つるかわ学園 理事長
 廣本 肇

明けましておめでとうございませす。私個人の年賀状は、タイトルを主題のように「ココロから感謝します」としました。
 百歳になりました日野原重明先生が「いのちとは自分の使える時間のことです」と言っています。
 七十九歳になる私、後どのくらい使える時間があるのか知りませんが生きることに感謝をこめて新年のご挨拶とします。毎日がかけがえないものになりますように自分自身と前向きに暮らします。
 できるだけ、宛名と、印刷された文章のそばに直筆で一言書き加えるのをココロの態度と思い努力しますが、結構それでも年賀状が苦痛になりましたので、来年の八十歳で年賀状を書くのをやめる事にしました。知的障害者の福祉に携わって、五十四年になります。もう少しししたら、そろそろ引退する事になる

のでしよう。「生涯現役」というのは、周りの人たちに迷惑をかける事が多くなるのではないかと懸念しております。さりとて理事長として限られた死力を尽くすのが取るべき態度と姿勢と思っています。
 私たちの「つるかわ学園」は、昭和三十五年、この多摩丘陵の緑豊かな自然に恵まれた環境を選んで、小さな施設を建てました。当時は、今で言う重度な障害を持ったお子さんは、いずれの施設でも断られ入所した福祉サービスが受けられませんでした。ご家族で養育困難という理由を抱えておりましても家庭で見ることができず、国はそう言っていました。施設を利用できません。人たちは、中軽度の程度で、集団生活に参加適応できるといふ事が条件でした。
 そうした子を持つご両親は、自分たちの子を入所できる施設を自ら作ろうと奔走しました。学園の歴史も例外なく、心血注いで親たちはその願望にひたすら人生を賭けていました。やがての後、重度な人こそ、施設福祉の恩恵を受け、中軽度の人たちは、可能な限り、地域社会で暮らせるように、その環境を整備していきこうという目標を定め、その約束のもと現代の社会福祉が意味を叶えていくとしていきます。
 つるかわ学園は平成二十二年十一月十三日に、感謝をこめて五十周年の記念式典を、地域の人たちを中心

にささやかな喜びと共に開催いたしました。今の名称は障害者支援施設「つるかわ学園」です。定員四十五名の施設入所支援と生活介護事業ですが、短期入所事業も行っておりまして、それでも小さな五十名の施設です。その他「東京都町田通勤寮」と言います。東京都の指定管理者として、昼間働きに行く利用者、そして寮での生活をする施設(二十名)を経営しています。その他、共同生活介護・共同生活援助事業であるグループホーム、ケアホーム(八事業所、十六住居)、「プリコラージ」の「たの空」という就労移行支援事業、生活介護事業で二十名の定員があります。そして町田市障がい者就労・生活支援センター「りんく」(就労支援事業)の経営。法人の単独事業として地域生活援助センター「フクシア」等各種障害者福祉事業をしています。新しい年に向け、日中活動事業所の開設も計画しております。
 施設が施設に閉じこもるだけではなく、ノーマライゼーションの理念にもとづき障害を持った人たちが地域で私たちが同じ気持ちで暮らせるようにと願いフォローしていく役割を果たしています。
 つるかわ学園のスタッフ一同、知的障害者の権利宣言や障害者の権利条約に謳われております障害者福祉の理念を実践し実証していかねばなりません。

地域と共に暮らし
 地域と共に生き
 ここを愛の拠点にします

私たちは
 情熱と勇気を持って行動します
 私たちは
 共感ある福祉を提供します
 私たちは
 あなたと心を結び合います

これは、つるかわ学園の理念ですが、この理念は最初からあったのではなく、つるかわ学園五十周年の歴史に培われた言葉なのです。
 昨年、三月十一日、東日本(東北地方)に巨大な地震と津波が襲いました。東北はまさに、遠くの果てまで続く瓦礫の山が、今でも雪降る風景に無残な廃墟を残しています。被災者はどうしているのでしょうか。あの不備不足のある仮設住宅に容赦なく寒さが迫っているのでしょうか。それを思うと、お屠蘇気分が明けておめでどうございませすとは、いかなるものでしょうかと咎められるのです。でも、いつまでも、そんな事を言っていましたら脱出できませんと、東北の現地の人に言われてしまいそうです。日本の政治家にもっとしっかりしてもらわなければ、東北の復旧・復興どころか日本の復旧・復興に力を失っていく心配をつくづく考えさせられた昨年でした。今年、世界各國のリーダーが交代するはず。アメリカ、ロシア、フランス、韓国、中国、北朝鮮と最高権力者の交代劇により世界はどうなっていくのか話題となる年です。日本だって円高として政局の混乱と長期化、欧州の財政危機だけでなく格差の拡大、それらを発端として国そのものが破綻していく凄さは恐怖です。中東、北アフリカの民主化運動、そして原油供給不足、悪い事はかりが揃い踏みしています。格差を含めた情報社会が目覚めた時暴動は対岸の火事ではないような暗雲が広がっているのです。壮絶な時代の幕開けとなるかもしれない今年ですが、折れない心を磨き、平常心を鍛えていきたいです。努力、辛抱、根性と老骨ムチ打ち堂々と生きたいと年頭の所感といたします。

二〇一二年 変わる日本へ

つるかわ学園 施設長 植村義秀



新しき年、二〇一二年を迎えまし
た。

本年は、障害者権利条約の批准に
必要な国内法の中心的な法律となる
「障害者総合福祉法」が国会に提出
される非常に大切な年になります。

本年秋の提出をめざした新法の法
案は、昨年とりまとめられた「障害
者総合福祉法の骨格に関する総合福
祉部会の提言（「骨格提言」）に基づ
いて厚労省により作成されますが、
「骨格提言」の「はじめに」で次の
ように述べられています。

「わが国の社会が、障害の有無に
かかわらず、個人として尊重され、
真の意味で社会の一員として暮らせ
る共生社会に至るには、まだまだ遠
い道のあるかもしれせん。（中
略）：私たちのこうした思いが、国
民や世論の理解と共感を得て、それ
が政治を突き動かし、障害者一人ひと
りが自身の存在の価値を実感し、
様々な人と共に支えあいながら生き
ていくことの喜びを分かち合える社
会への一歩なることを信じてこの
骨格提言をまとめました。

今、新法への一歩を踏み出すこと
が必要です。」

新しく作られるであろう「障害者
総合福祉法」が、障害者権利条約の
批准とともに、日本の障害者福祉制

度を根本から大きく変えていく法律
になるよう、しっかりと見届けていき
たいと思います。

あのとときから私たちの世界は大き
く変わった、ということとは、何年か
後、そしてもっとずっと後になって
気がつくものかもしれません。「障
害者総合福祉法」も制定されればそ
うなる可能性をもっています。

しかし、二〇一一年三月十一日だ
けは、はつきりとこの日を境に日本
は大きく変わっていくだろうことは
誰もが強く感じています。

地震と津波の甚大な被害をのりこ
えながら日本は変わり、原発事故に
よる放射能汚染の拡大と危機の増大
は私たちの意識や生活を大きく変え
ていくはずで。しかし、変化をど
のような変化として受けとめ、自ら
をどう変化させていくかは一人ひと
りに委ねられています。

技術の絶えざる進歩は私たちの生
活や社会の先行きを更に見えなく
し、少子高齢化、地方の疲弊、経済
の衰退は私たちを暗闇の迷路に誘っ
かの如くです。しかし、それでもな
お希望はある、ということが、変わ
りゆく世界の中で新しい年を迎える
気持を強く支えてくれます。

平成二十四年新年を迎えて

東京都町田通勤寮 寮長 丸山文弘



新年明けましておめでとござい
ます。

「三・一一東日本大震災」「大津波」
「福島第一原発事故」等で明け暮れ
た一年が終わり、平成二十四年とい
う新たな一歩を踏み出しました。新
たな一歩とはいえ、震災からの復
興が完全に軌道に乗ったというわけ
ではなく、瓦礫の撤去もままならず、
特に福島第一原発の周りでは放射能
汚染のため手をつけることさえでき
ない状態にあります。そのあまりに
重い現実と、これから自分たちに何
ができるのかという自問の中で、新
年を祝うというところにはなかなか
たどり着けません。これは、多くの
日本人の気持ちだと思えます。ただ、
被災者がいて支援を必要としている
限り、現在も現地での支援活動を町
田通勤寮として継続中ですが、必要
とされる支援を行っていききたいと思
います。

話は変わりますが、『障害者自立
支援法』が施行され、その法律の中

で通勤寮という名称はなくなりまし
た。東京都の六ヶ所ある通勤寮は、
来年度から全て宿泊型自立訓練事業
に移行するという事が決定していま
す。ただ、この宿泊型自立訓練事業
は、夜間支援（生活支援）施設とい
う位置づけになり、通勤寮の生活と
就労の一体的支援という大きな特徴
の中から、就労支援が抜け落ちてし
まいます。東京都の指定管理があと
二年間残されていますので、この間
に東京都と話し合いを重ね、利用者
の方（及び職員）たちが困ることの
ない制度の構築を図りたいと思いま
す。頑張らなきゃいけない状況が、
まだまだ続きます。

本年もどうぞ、町田通勤寮に対す
るご指導ご鞭撻をお願いいたしま
す。





第三十四回

つるかわ学園福祉バザー



第三十四回 つるかわ学園福祉バザーを終えて

つるかわ学園 地域支援課長 芹澤政人

福祉バザー 学園バンドの取り組み

つるかわ学園 支援スタッフ 福島夏樹

つるかわ学園福祉バザーは、今回で、二十四回目の開催となりました。毎年、福祉バザー前になると、当日の天候を心配しますが、当日は、午後の時間帯で少し雨に降られましたが、最後まで開催でき、ホッとしているところです。

九月十五日にチラシの一斉配布、九月十六日から十月二十四日まで、寄贈物品の受領を行いました。二百六十件以上の品物を受け取らせて頂きました。物品の寄贈にご協力をいただいた多くの地域の皆様には、深く感謝申し上げます。

また、ご家族にも五回の家族協力日での作業をして頂き、無事に当日を迎える事が出来ましたことに深く感謝致します。

福祉バザー当日の開門前には、三百六十人の長い行列、駐車場も満車の状態であったこと等からも短期集中で取り組んできた成果があったのだと感じています。指針に基づいた一番の目標としましては、『利用者さんの生活の質の向上であり、そのことが、利用者さん一人ひとりに実感してもらえようという行事としていく。』としました。今回は、午前中から利用者さんには、買い物やステージを楽しんでもらえるように体制を組みました。利用者さんからは『楽しかった』との感想も頂き、嬉しく感じております。



ボランティア・バザー委員は、各役割の業務を一生懸命に遂行し、中心となって準備をしてきていました。その中で、私自身、バザーでの責任者の立場は初めてでありましたが、一年一年、継承していくことの大切さを強く感じております。今後も、利用者さんに楽しんで頂き、また、地域との連携をより深く構築していきたいという『行事づくり』をしていきたいと思っております。

平成二十二年度の福祉バザーから、学園職員有志としてステージでバンドを始めました。近年学園で様々な楽器演奏が出来る職員が入職し、ボーカル、ギター、ベース、キーボード、ドラムとバンドとして成り立つ人員が確保できていました。その事からボランティア・バザー委員会の職員から「やってみないか。」と誘われ、福祉バザーの開催に先立ち少ない時間の練習してきました。

始めは、自身の気分転換が出来れば良いと思うぐらいの気持ちで考えていましたが、練習を重ねると共に利用者も僕らの演奏に耳を傾けて下さるようになり、学園バンドとして行う事の意欲が少しずつ高まりました。

こうして平成二十二年度の福祉バザーから貴重なステージ時間を頂戴し、学園バンドの演奏を行う事が出来ました。そして、今年度も学園バンド有志としてステージで演奏する事が出来ました。今年度は利用者もステージに立って踊って下さり、会場を盛り上げて頂けました。

あくまで福祉バザーの主目的はバザーではありませんが、長い買物をしている合間に、少しでも私達やつ

るかわ学園という地域で生活する利用者の存在を知って頂くきっかけになればと思います。

学園バンドは昨年度の福祉バザーでの演奏をきっかけに、毎年学園内で定期的に行っている行事や企画等で演奏の依頼を頂くようになりました。今後も職員の特技や趣味を活かし、職員も利用者も互いに「快い、楽しい。」と思えるより良い時間を提供できればと思っております。今後もつるかわ学園からバンドの音が聞こえてくると思いますが、温かく見守って頂けたら幸いです。



情報交換会

町田通勤寮 支援員

山内康紀

九月八日、法人合同委員会の一環

として第二回「情報交換会」が開催

されました。法人の各事業所で活躍する職員が一同に会していますが、現場の生の声が忌憚なく出せるよう、管理職抜きとなっております。

前回は事業所を分散させてバランスを保たせた以外はランダムでしたが、今回は経験年数ごとにテーブルを分けています。

また、テーマも「私のやりがい」と設定し、事実上ノンテーマであった前回より絞り込んでいます。

「迷える若手」「悩める中堅」「衰えるベテラン」とそれぞれの世代特有の苦悩を持ち寄ったことで活発な議論を生みましたが、改めて「やりがい」と訊かれると意外と戸惑うもの。十人十色のやりがいが噴出した他、「そもそもやりがいは?」といった哲学的な話題にも及んだ

テーブルもありました。

異なる事業所の話からそれぞれ特有の、逆に意外と同じような苦労ややりがいがあると知った事は何よりの成果だったのではないのでしょうか。僅か数年で法人内の事業所は多数多岐にわたるようになりました。その中で特に懸念されることは事業所ごとに閉塞感が生まれる事かと思われま。その防止のためにも現場レベルでの「横のつながり」は重要になってくるでしょう。本音で語れる場は更に価値を高めてくるに違いないりません。

惜しむらくは「懇親会」が開催できなかつたこと。事業所ごとに都合がありやむを得ないところですが、お酒が入るとどうなるのか見てみたかったところでもあります。

つるかわ学園ホームページがリニューアルしました。

社会福祉法人つるかわ学園のホームページがリニューアルされ、より見やすく生まれ変わりました。つるかわ学園のホームページからつるかわ学園の事業所をすぐにアクセスする事が可能になりました。今後ともつるかわ学園をよろしくお願いします。

アドレスはこちら!!
HP : tsurukawa-gakuen.com



つるかわ学園を支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいませうようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千円ですが、ひとり何口か入っていたくことを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号
〇〇一〇一〇一七七一九四〇二九
加入者
社会福祉法人 つるかわ学園